

恵み深い父なる神よ、み子は、すべての人のまことの命のパンとなるために、天からこの世に降られました。どうかこの命のパンによってわたしたちを養い、常に主がわたしたちのうちに生き、わたしたちが主のうちに生きられるようにしてください。父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられる主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン



日本聖公会 東京教区
聖パウロ教会 にちようがっこう
〒153-0053 目黒区五本木 2-20-1
でんわ: 03-3710-6031

発行日
2023年
3月19日

今週の聖書 ヨハネによる福音書 9:1-13、28-38

1 さて、イエスは通りすがりに、生まれつき目の見えない人を見かけられた。2 弟子たちがイエスに尋ねた。「先生、この人が生まれつき目が見えないのは、誰が罪を犯したからですか。本人ですか。それとも両親ですか。」3 イエスはお答えになった。「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである。4 私たちは、私をお遣わしになった方の業を、昼の間に行わねばならない。誰も働くことのできない夜が来る。5 私は、世にいる間、世の光である。」6 こう言うてから、イエスは地面に唾をし、唾で土をこねてその人の目にお塗りになった。7 そして、「シロアム——遣わされた者」という意味——の池に行つて洗いなさい」と言われた。そこで、彼は行つて洗い、見えるようになって、帰つて来た。8 近所の人々や、彼が物乞いをしてきたのを前に見ていた人々が、「これは、座つて物を乞いしていた人ではないか」と言った。9 「その人だ」と言う者もいれば、「いや違う。似ているだけだ」と言う者もいた。本人は、「私がそうです」と言った。10 そこで人々が、「では、お前の目はどのようにして開いたのか」と言うと、11 彼は答えた。「イエスという方が、土をこねて私の目に塗り、『シロアムに行つて洗いなさい』と言われました。そこで、行つて洗つたら、見えるようになったのです。」12 人々が「その人はどこに居るのか」と言うと、彼は「知りません」と言った。13 人々は、前に目の見えなかった人をファリサイ派の人々のところへ連れて行つた。28 そこで、彼らは罵つて言った。「お前はあの者の弟子だが、我々はモーセの弟子だ。29 我々は、神がモーセに語られたことは知っているが、あの者がどこから来たのかは知らない。」30 彼は答えて言った。「あの方がどこから来られ



たか、「ご存じないとは、実に不思議です。あの方は、私の目を開けてくださったのに。31 神は罪人の言うことはお聞きにならないと、私たちは承知しています。しかし、神を敬い、その御心を行う人の言うことは、お聞きになります。32 生まれつき目が見えなかった者の目を開けた人がいるということなど、これまで一度も聞いたことがありません。33 あの方が神のもとから来られたのでなければ、何もおできにならないはずですよ。」34 彼らは、「お前は全く罪の中に生まれたのに、我々に教えるようというのか」と言い返し、彼を外に追い出した。35 イエスは彼が外に追い出されたとお聞きになった。彼と出会うと、「あなたは人の子を信じるか」と言われた。36 彼は答えて言った。「主よ、それはどなたですか。その方を信じたのですが。」37 イエスは言われた。「あなたは、もうその人を見ている。あなたと話しているのが、その人だ。」38 彼が、「主よ、信じます」と言つて、ひれ伏した。

聖書からのメッセージ

執事 高柳 章江

今日の福音書は、生まれつき目が見えなかった人が、イエスによって目が見えるようになった、というお話です。「目が開く」という言葉には「物が見えるようになる」という意味のほかに、「物事がわかる、視野が広がる」という意味があります。イエスとの出会いによって目が開かれた人は、それまでとはまるで別人のように変わります。聖書の中でも、イエスによって目が見えるようになった人が、目が見えなかった人と同じ人なのかどうか、周りの人にはわからなくなっていたとある通りです。私たちはイエスとの出会いによって、真理を悟ることができます。それは今までの自分とは違う自分になることであり、ファリサイ派の人々にいわせれば、「イエスの弟子になる」ことでもあるのです。